



香陽小だより

令和7年9月30日 第11号

枚方市立香陽小学校

校長 明井 美絵

走る

谷川俊太郎

ぼくら走る
野原を走る 道を走る
街を走る 荒地を走る
ぼくら走る
丘を越え 海を越え 国境を越えて
ぼくら走る いっしょに走る
でもぼくら違う
ひとりひとり顔も心も
ぼくら走る
心の中の見えない道を
息を切らして 汗にまみれて
歌いながら 考えながら
どこなのか分からない
限らない遠くを目指して
ころんだら起き上がる
迷ったら立ち止まり・・・
雲を見る 風を聞く
そして話し合う 友だちと



平和の願いを折り鶴に込めて・・・。

6年生が修学旅行に行ってきました。



9月26日(金)・27日(土)に6年生が修学旅行で広島を訪れました。広島平和記念公園内にある「原爆の子の像」の前で平和を祈るセレモニーを行い、香陽小学校の1～5年生が製作に協力してくれた折り鶴を捧げました。緊張感を持って、今、子どもたちができる精一杯の気持ちを言葉や歌に込めて伝えることができました。

戦後80年となった今年の8月6日の広島市平和記念式典において、広島市の小学校6年生の代表が行った「平和への誓い」の一部を紹介します。

いつかはおとずれる、被爆者のいない世界。

同じ過ちを繰り返さないために、多くの人が事実を知る必要があります。

(略)

その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。

多様性を認め、相手のことを理解しようとする事。

一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはずです。

周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながるのではないのでしょうか。

One voice.

たとえ一つの声でも、学んだ事実に思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはずです。

令和7年 広島市平和記念式典 「平和への誓い」より

現在もウクライナをはじめとして、世界のどこかで戦争や紛争が起こっています。そして、必ず多くの市民が戦争に巻き込まれ、命を奪われています。たとえ、紛争地から逃れることができても、難民として過酷な生活を強いられます。戦争の現実を遠い過去の出来事、あるいは、遠い国の出来事だとして、私たちがリアルに捉える

ことができなければ、平和は築けない、自分事として受け止めることが必要であるということをこの誓いの言葉はあらためて教えてくれます。また、知ったこと、学んだことを真摯に伝え続けることの大切さをも示してくれています。

子どもたちには、ぜひ学校生活を通して、自分には経験がないことでも想像でき、他者のことを受容したり、共感したりできる力を身につけてほしいと思います。平和を築いていくということは、自分たちの身近な問題を解決しようと努力することから始まるのだと感じてほしいものです。



保護者のみなさまへ お願い

○運動会の練習が本格的に始まります。9月下旬になり、少しずつ秋らしい気温になってはいますが、まだ暑い日も予想されます。**子どもたちの安全・健康面を重視し、暑さ対策・練習形態など、しっかり検討しながら取り組んでいきます。**十分な水分、タオル等のご準備をお願いいたします。

○欠席等の連絡につきましては、**8時15分までにまなびポケットへの入力**をお願いします。朝のお忙しい時間にお手数をおかけしますが、ご理解、ご協力の程、よろしくお願いいたします。



読書ノート 100冊（1～4年）・50冊（5・6年）以上達成者

●1年生 …

●2年生 …

●4年生 …

10月の行事予定



♪学校ブログ♪
学校の様子を随時、
掲載しています。



